

## 公募型プロポーザル方式による設計者選定・特定評価基準

### 共通事項

#### 1 失格(無効)の判断

提案を失格(無効)とする場合は、各要領等に記載している提出物の応募条件への違反等、次の諸点を勘案して、評価委員会の意見を聴取した上で、八幡市が決定する。

- (1) 設計図等、応募条件で禁止されている過大な提出物があった場合
- (2) プロポーザル提出物の内容に虚偽の申告があった場合
- (3) 評価委員会の委員等に働きかけ、審査の結果に影響力を行使しようとした場合
- (4) これらと同等と認められる不適当な行為があった場合

#### 2 配点について

- (1) 主観的評価(太線枠の事項)の各評価事項については、評価委員会委員がA、A1、B、B1、C の評価を行う。
- (2) 客観的評価(二重線枠の事項)の各評価事項については、評価委員会事務局によってあらかじめA、B、C等の段階評価による評価点の換算又は評価点の積み上げにより評価を行う。
- (3) 評価点の計算は、各項目の配点×評価係数とする。
- (4) 段階評価による係数は、A=1.0、A1=0.8、B=0.6、B1=0.4、C=0.2とする。

### 担当チームの能力(技術職員の経験及び能力)

#### 1 事務所としての業務実績を評価する。

事務所の業務実績については、実績毎に表の評価事項により評価する。

**評価点 = 実績 1 件毎の評価 ((1)①+(1)②) を 4 件合算**

##### (1) 事務所の実力

区分	規模等	評価点
種 別 ①	庁舎	0.6
	庁舎以外の公共施設	0.4
	上記以外の複合施設	0.2
面 積 ②	9,000㎡以上	0.4
	6,000㎡以上9,000㎡未満	0.3
	6,000㎡未満	0.2

#### 2 担当チームの能力を、各担当技術者の資格・経験、業務実績で評価する。

なお、管理技術者及び建築意匠担当主任技術者については、繁忙度を評価に加える。

##### (1) 資格・経験 資格係数に経験年数を乗じた資格・経験係数で評価する。

**評価点 = 配点数 × 資格・経験係数**  
資格・経験係数 = 技術者資格係数(表1) × 経験年数

①管理技術者

評価事項	評価内容	評価
資格・経験係数	資格・経験係数 18.0～	A
	資格・経験係数 15.0～17.9	B
	資格・経験係数 ～14.9	C

②主任技術者

評価事項	評価内容	評価
資格・経験係数	資格・経験係数 15.0～	A
	資格・経験係数 12.0～14.9	B
	資格・経験係数 ～11.9	C

表1	資格	資格係数
技術者	一級建築士、建築設備士、技術士	1.0
資格係数	その他	0.5

(2) 業務実績

技術者の業務実績の件数及び内容から5段階(A、A1、B、B1、C)の評価係数で評価する。

$$\text{評価点} = \text{配点数} \times \text{業務実績評価係数}$$

$$\text{業務実績係数} = \text{業務実績内容係数(表2)} \times \text{業務実績立場係数(表3)}$$

$$+ (\text{表2}) \times (\text{表3}) \cdots \cdots 2\text{件分}$$

※業務実績立場係数(表3)は管理技術者及び意匠担当主任技術者のみに適用する。

評価事項	評価内容	評価
業務実績	業務実績係数 1.6以上～	A
	業務実績係数 1.2以上1.6未満	A1
	業務実績係数 0.8以上1.2未満	B
	業務実績係数 0.4以上0.8未満	B1
	業務実績係数 0.4未満	C

(表2) 業務実績内容係数

各実績毎の内容係数を乗じた数値を係数とする

$$\text{業務実績内容係数} = \text{区分係数①} \times \text{区分係数②}$$

区分	規模等	区分係数
種別 ①	庁舎(地方公共団体)	1.0
	公共施設	0.7
	上記以外の複合施設	0.3
面積 ②	6,000㎡以上	1.0
	6,000㎡未満	0.6

(表3) 業務実績立場係数

業務実績における立場	業務実績立場	立場係数
	管理技術者、意匠担当主任技術者	1.0
	その他主任技術者、担当技術者	0.5

(3) 繁忙度

手持ち業務と本件業務との重なり程度を、様式3-2の「現に従事している主な設計業務及び監理業務」欄の記載から3段階(A、B、C)で評価する。

$\text{評価点} = \text{配点数} \times \text{管理技術者繁忙度評価係数}$ $\text{配点数} \times \text{意匠担当主任技術者繁忙度評価係数}$
--

評価事項	評価内容	評価
管理技術者・意匠担当主任技術者の繁忙度	委託期間中を通して手持ち業務との重なりがない。	A
	手持ち業務と重なりが一時ある(委託期間のうち60%未満)が、程度から判断して業務遂行が可能。	B
	委託期間中を通して手持ち業務との重なりがある(委託期間のうち60%以上)。	C

担当チームの対応(業務実施方針等)

1 技術提案書により、5段階(A、A1、B、B1、C)で評価する。

評価事項	評価内容	評価				
		A (×1.0)	A1 (×0.8)	B (×0.6)	B1 (×0.4)	C (×0.2)
課題① 業務実施方針	企画意図の理解、実施手順の明確性	極めて良好	良好	普通	やや不十分	不十分
課題② 業務実施方針の妥当性(提案の的確性・機能性・実現性)	的確性、機能性、成果達成の期待度・実現性	極めて高い	高い	普通	やや低い	低い
経費の見積価格	見積価格と予定価格の比較					

2 評価点の算出

$\text{課題①評価点} = \text{配点数} \times \text{課題①評価係数}$ $\text{課題②評価点} = \text{配点数} \times \text{課題②評価係数}$ <p style="text-align: center;">※各テーマ毎に評価</p> $\text{見積価格評価点} = (\text{配点数} - 1) \times [ \{ 1 - (\text{見積価格}) / (\text{予定価格}) \} \times 4 ] + 1$ <p style="text-align: center;">※ [ ] 内が1を超える場合は最大1とする</p>
--

例) 予定価格 5000 万円 見積価格 4000 万円 (80%) の場合  

$$\text{配点数} \times \{ (1 - 4000/5000) \times 4 \} = \text{配点数} \times 0.8$$
(実際の予定価格とは異なります)

見積価格が予定価格の 75%以下は一律 配点数×1.0